

近畿圏LGBT施策推進プロジェクト

アンケート調査の分析結果



NIJIRO DIVERSITY

認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

Supported by



SEKISUI HOUSE
MATCHING
PROGRAM

調査の概要

- ウェブ上で実施
- 回答収集：2020/7/20-8/9
- 157名から回答（分析対象 155名）



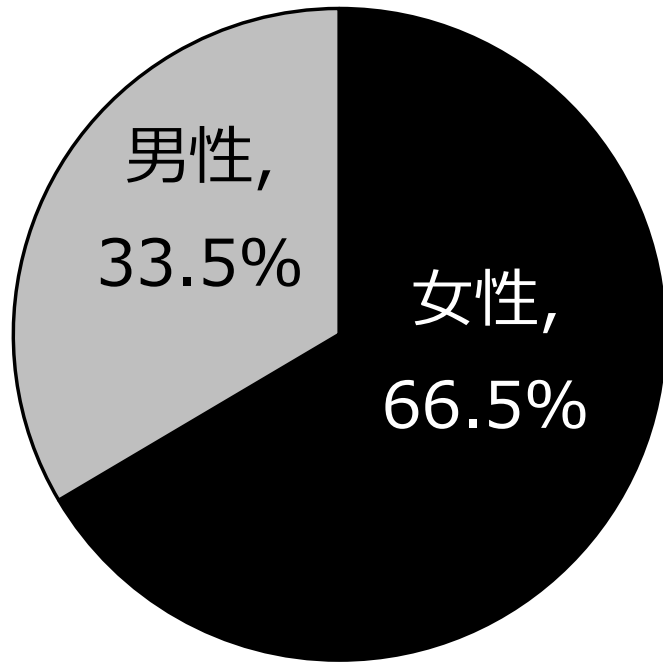
今回の対象者：

滋賀県
京都府
大阪府
兵庫県
奈良県
和歌山県

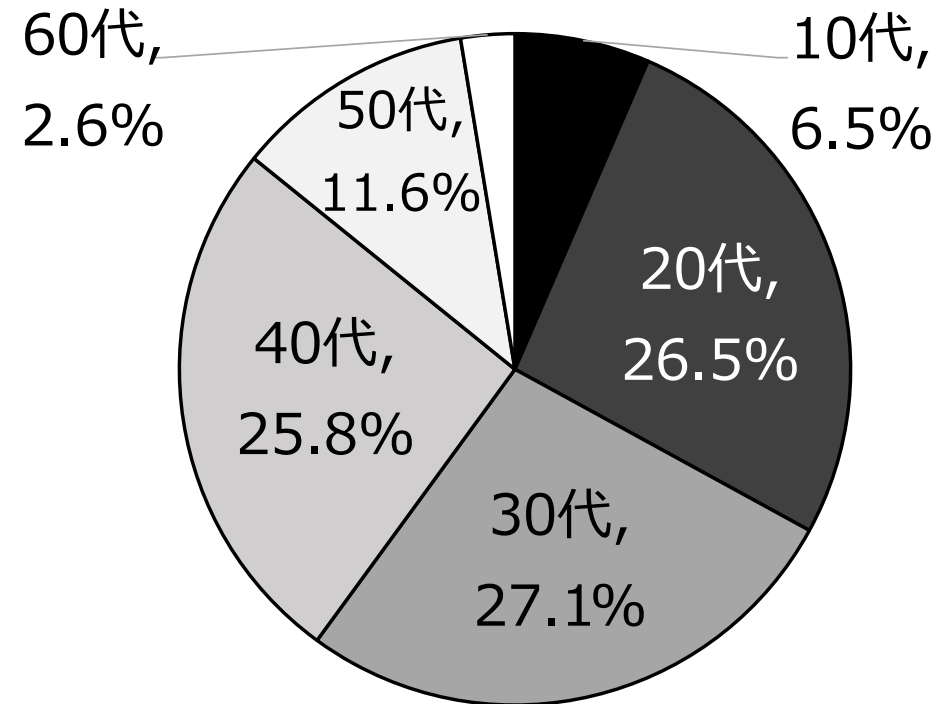
在住・在学・在勤の方

- 調査責任者：虹色ダイバーシティ 理事長 村木 真紀
- 分析、報告書執筆：虹色ダイバーシティ 研究員 三上 純（大阪大学）
- 設問設計支援：平森 大規（国際基督教大学ジェンダー研究センター研究員、ワシントン大学）

対象者の特徴：生まれの性、年代

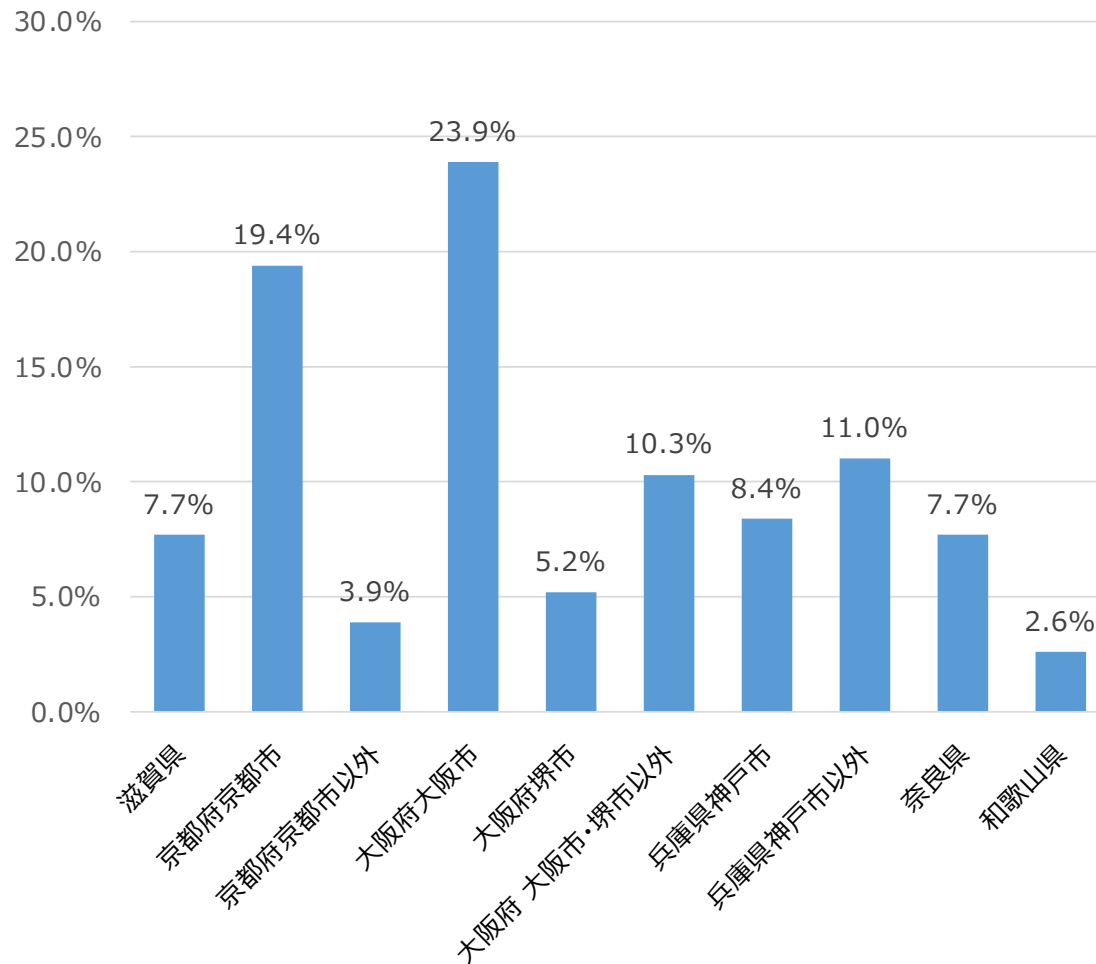


- 生まれの性は、女性が約3分の2であり、男性の約2倍



- 20代、30代、40代からの回答が多く、10代、50代、60代が少ない

対象者の特徴：居住地域

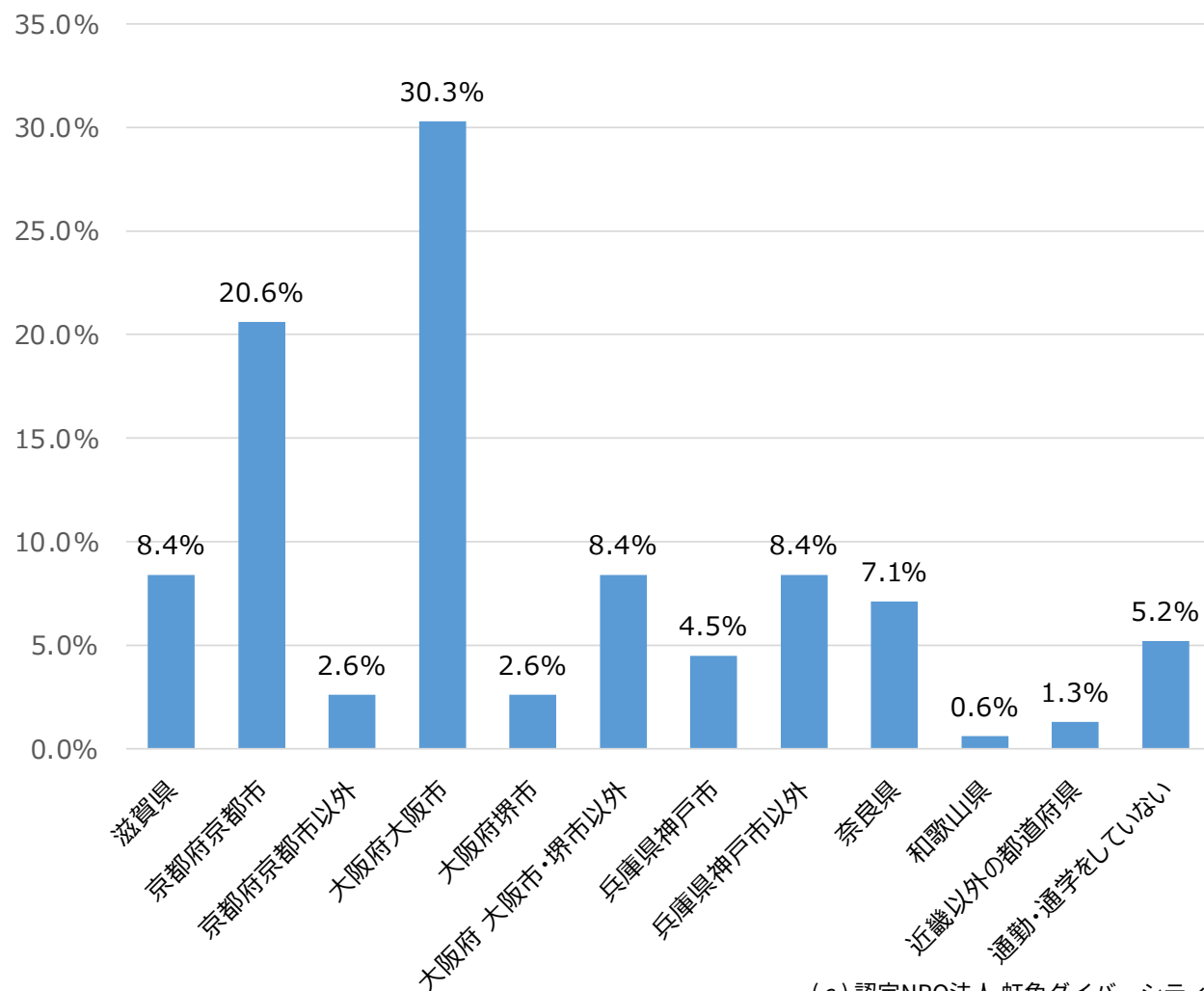


- 大阪府大阪市が23.9%、京都府京都市が19.4%で多い。近畿地区総人口に対する実際の人口比よりも大幅に高い割合
- 大阪府大阪市・堺市以外は10.3%で、実際の人口比よりも大幅に低い割合

※総務省統計局（2020）『統計でみる市区町村のすがた2020』を参考に近畿地区総人口に対する各地域の人口比を算出すると、滋賀県6.82%、京都府京都市19.4%、京都府京都市以外3.9%、大阪府大阪市12.98%、大阪府堺市4.05%、大阪府大阪市・堺市以外25.62%、兵庫県神戸市7.42%、兵庫県神戸市以外19.29%、奈良県6.58%、和歌山県4.65%である。

(https://www.stat.go.jp/data/s-sugata/pdf/all_shi.pdf)

対象者の特徴：通勤・通学地域



(c) 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

- 京都府京都市と大阪府大阪市が多く、合わせて対象者の約半分
- 通勤・通学をしていない者が5.2%

本調査でのSOGI分類

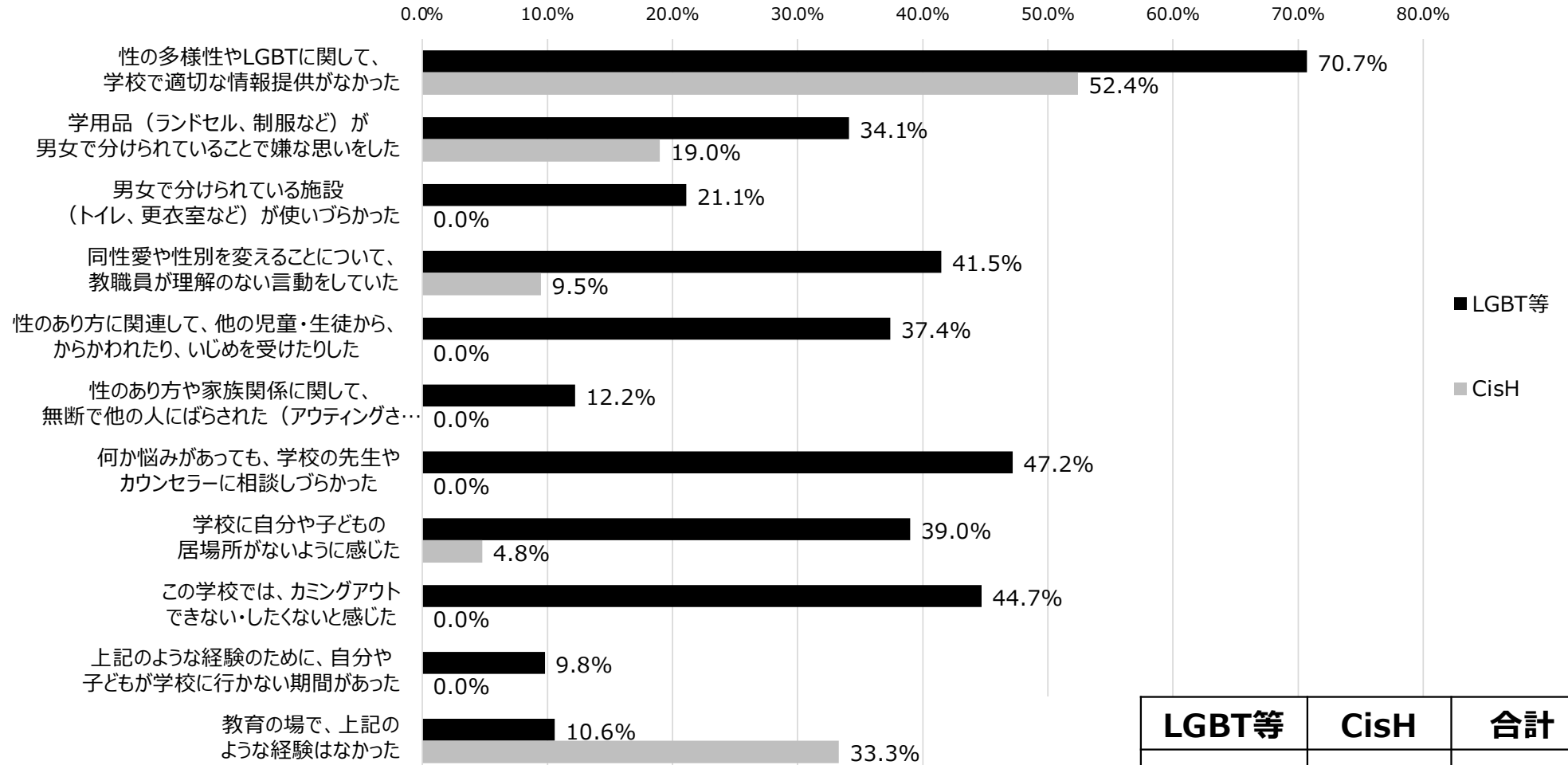
生まれの性	性自認	性的指向	SOGI分類 (12分類)	LGBT等/CisH (2分類)
女性	女性	女性	シスL	LGBT等
		男性	シスH女性	CisH
		両性+問わない	シスB女性	LGBT等
		該当なし、その他	シスその他女性	LGBT等
	男性	全部	トランス男性	LGBT等
	X、その他	全部	生まれ女性、Xジェンダーなど	LGBT等
男性	女性	全部	トランス女性	LGBT等
	男性	女性	シスH男性	CisH
		男性	シスG	LGBT等
		両性+問わない	シスB男性	LGBT等
		該当なし、その他	シスその他男性	LGBT等
	X、その他	全部	生まれ男性、Xジェンダーなど	LGBT等

回答者の年代×SOGIによる分類

		シスL	シスG	シスB 女性	シスB 男性	シス他 女性	シス他 男性	トランス 男性	生まれ 女性、 Xジェン ダーなど	トランス 女性	生まれ 男性、 Xジェン ダーなど	シスH 女性	シスH 男性	合計
10- 20代	度数	6	5	4	1	3	0	3	13	4	2	8	0	49
	%	37.5%	17.2%	15.4%	33.3%	60.0%	0.0%	33.3%	59.1%	40.0%	28.6%	38.1%	0.0%	32.5%
30- 40代	度数	9	22	14	2	0	0	6	8	4	5	9	1	80
	%	56.3%	75.9%	53.8%	66.7%	0.0%	0.0%	66.7%	36.4%	40.0%	71.4%	42.9%	50.0%	53.0%
50代 以上	度数	1	2	8	0	2	1	0	1	2	0	4	1	22
	%	6.3%	6.9%	30.8%	0.0%	40.0%	100.0 %	0.0%	4.5%	20.0%	0.0%	19.0%	50.0%	14.6%
合計	度数	16	29	26	3	5	1	9	22	10	7	21	2	151
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- 「シスG」が最多
- 「シスB女性」、「生まれ女性、Xジェンダーなど」、「シスH女性」も20名以上
- 「シスB男性」、「シスH男性」、「シスその他男性」はそれぞれ3名以下

学校生活や子育ての中で経験した困りごと

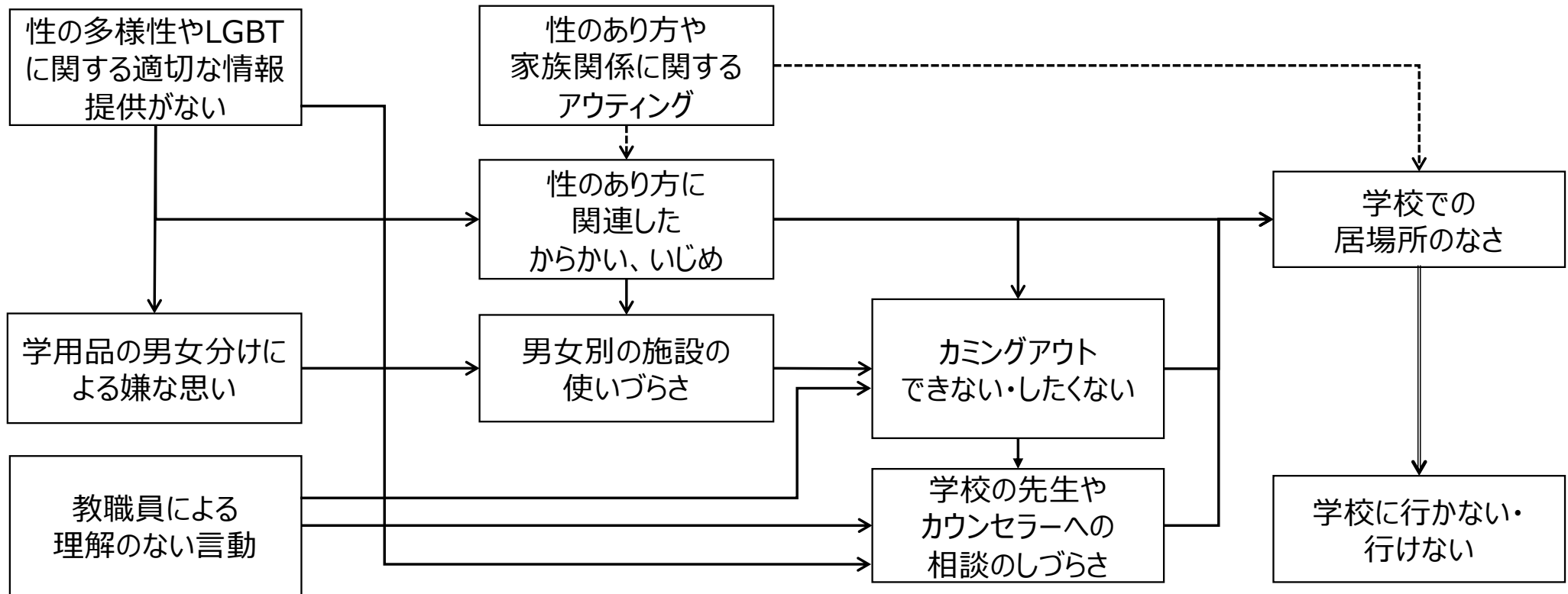


N =

LGBT等	CisH	合計
123	21	144

(c) 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

学校生活における困りごと



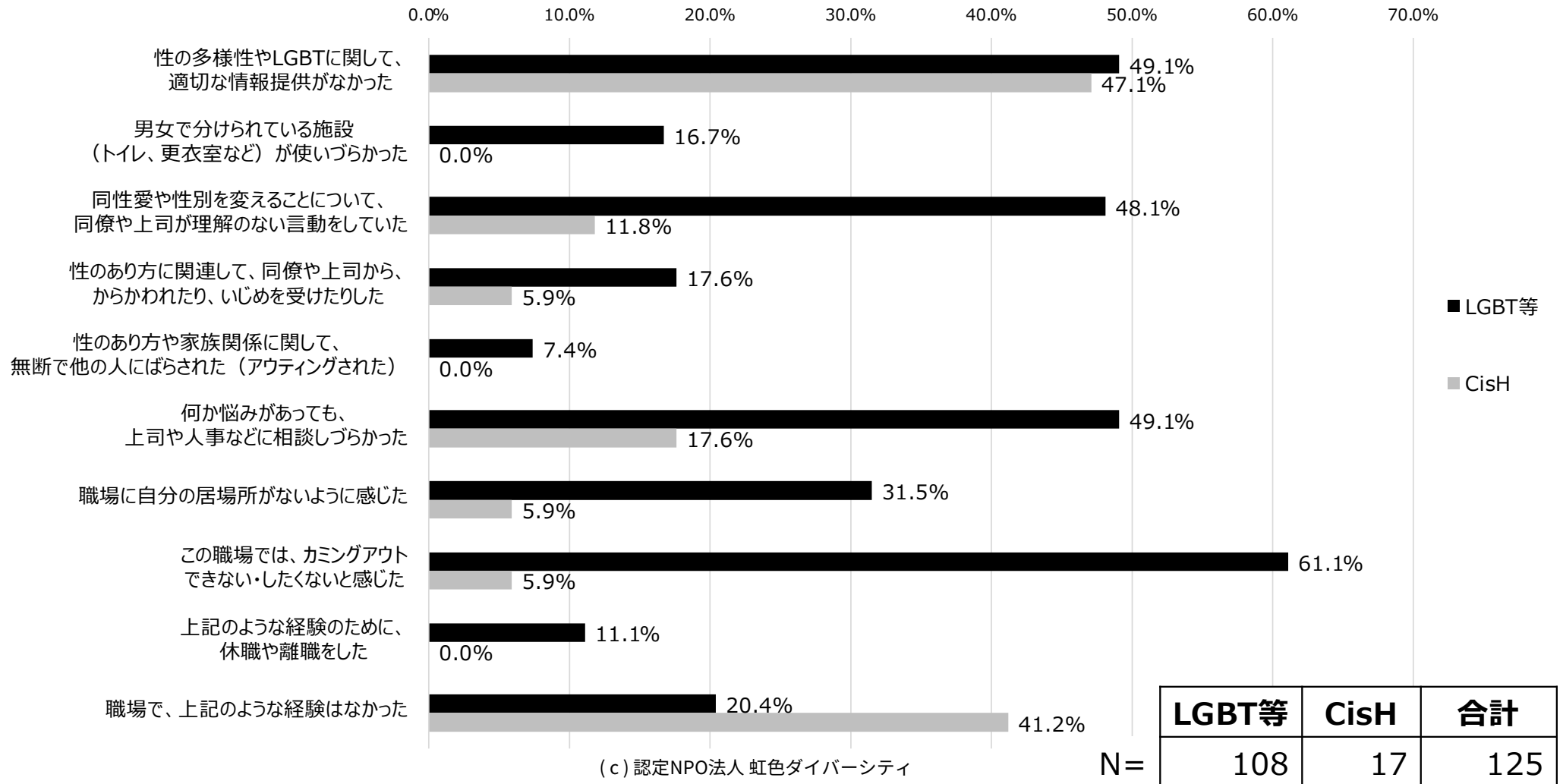
→：統計的に有意な関連が認められたもの。

→→：有意な関連は認められなかったが、一般的に関係性が推測されるもの。

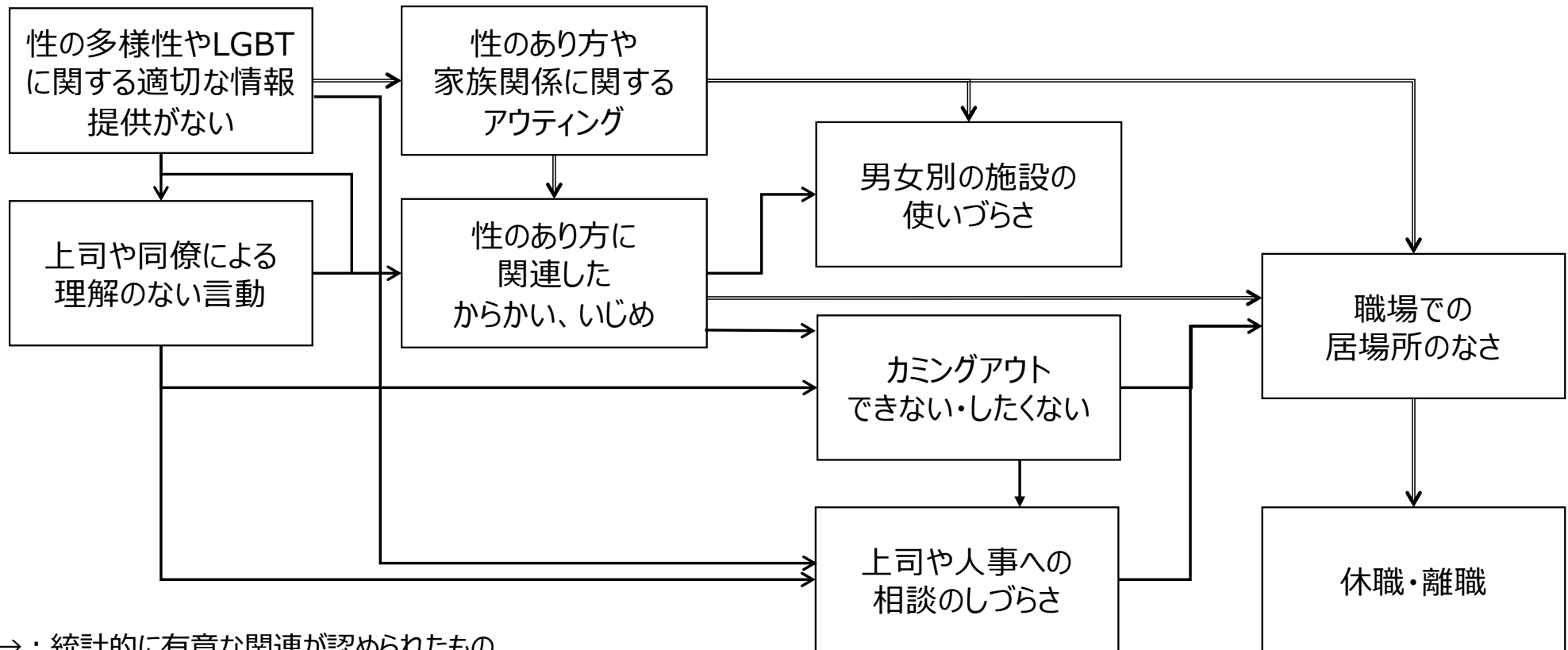
⇒：回答の偏りにより、検定が行えなかったが、対象者が増えれば有意な関連が見込まれるもの。

※矢印の方向（因果関係）は、すべて調査者による仮説である。また、簡略的に図式化するため、矢印は一方向としているが、実際は双方向に影響し合うものが多いと思われる。

職場で経験した困りごと



職場における困りごと

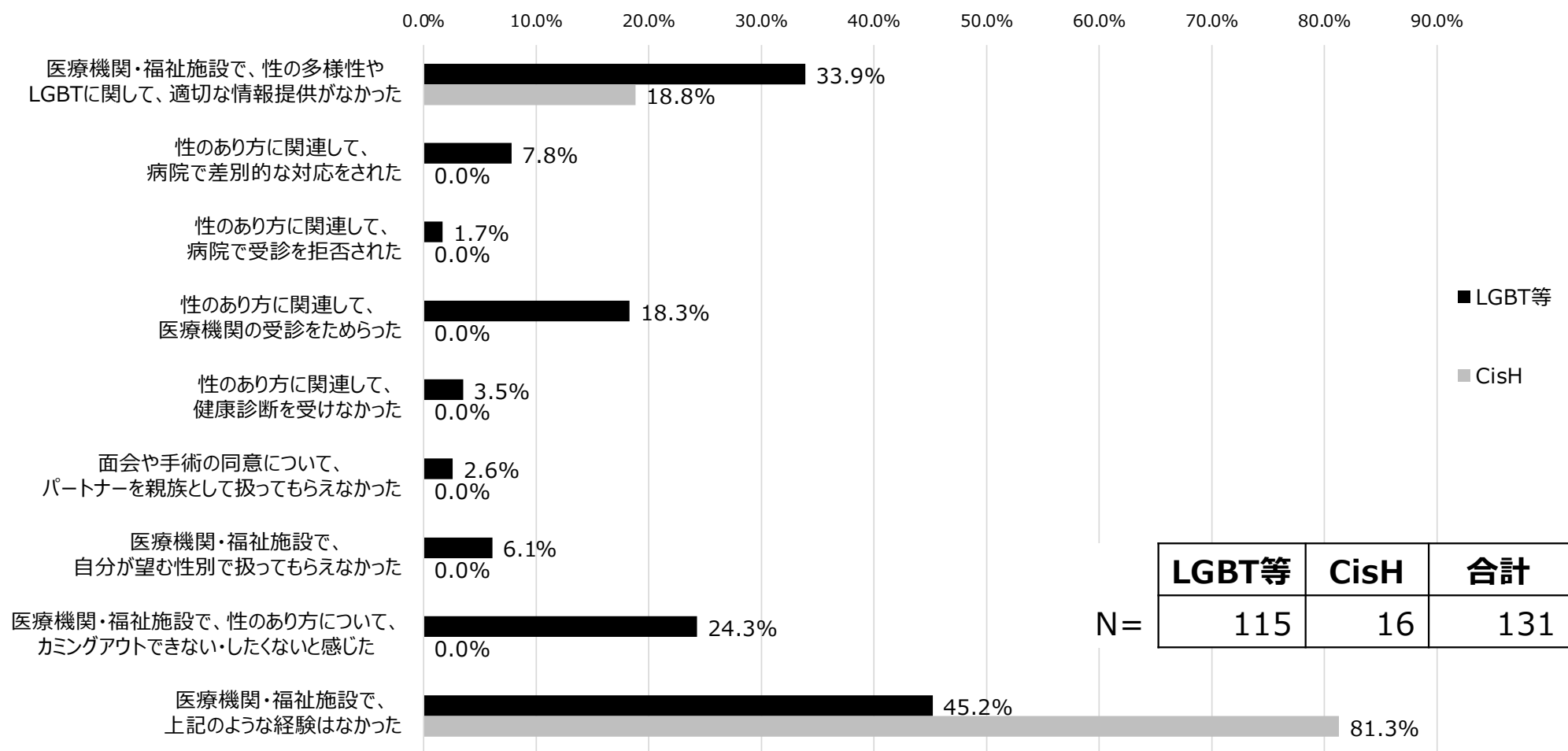


→：統計的に有意な関連が認められたもの。

⇒：回答の偏りにより、検定が行えなかったが、対象者が増えれば有意な関連が見込まれるもの。

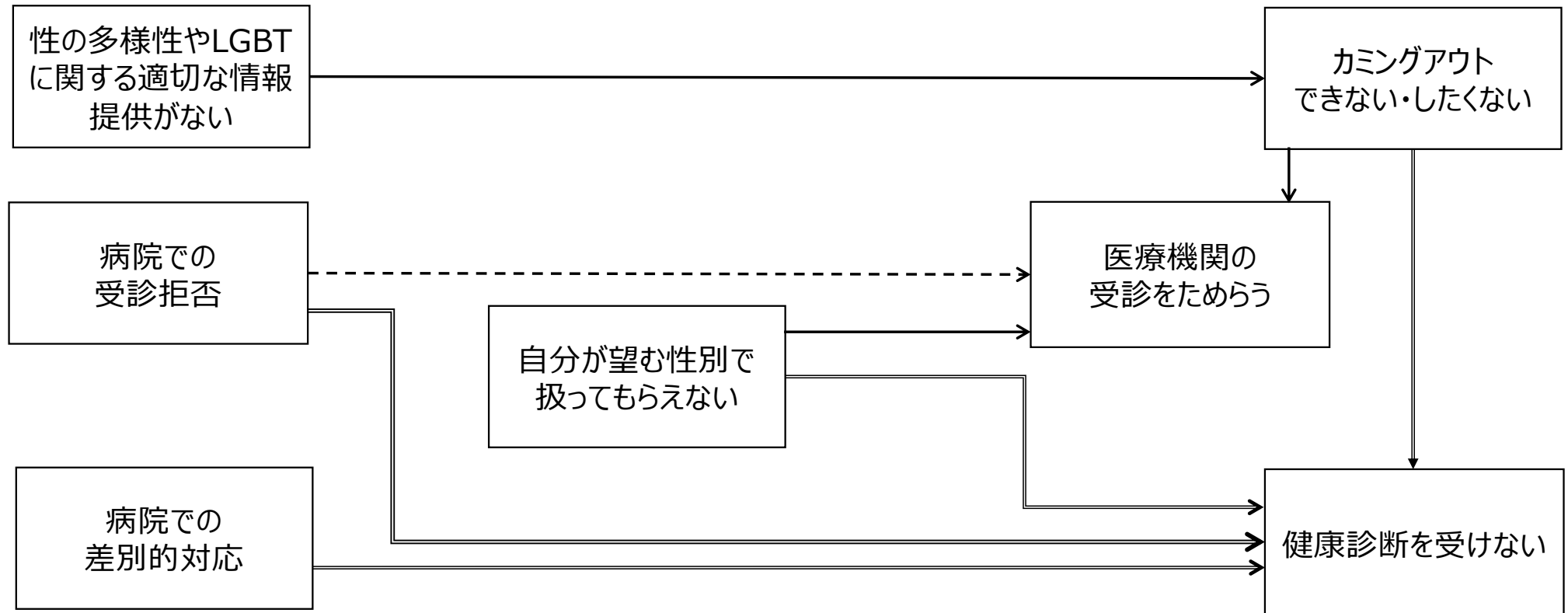
※矢印の方向（因果関係）は、すべて調査者による仮説である。また、簡略的に図式化するため、矢印は一方向としているが、実際は双方向に影響し合うものが多いと思われる。

医療・福祉に関して経験した困りごと



(c) 認定NPO法人 虹色ダイバーシティ

医療・福祉における困りごと



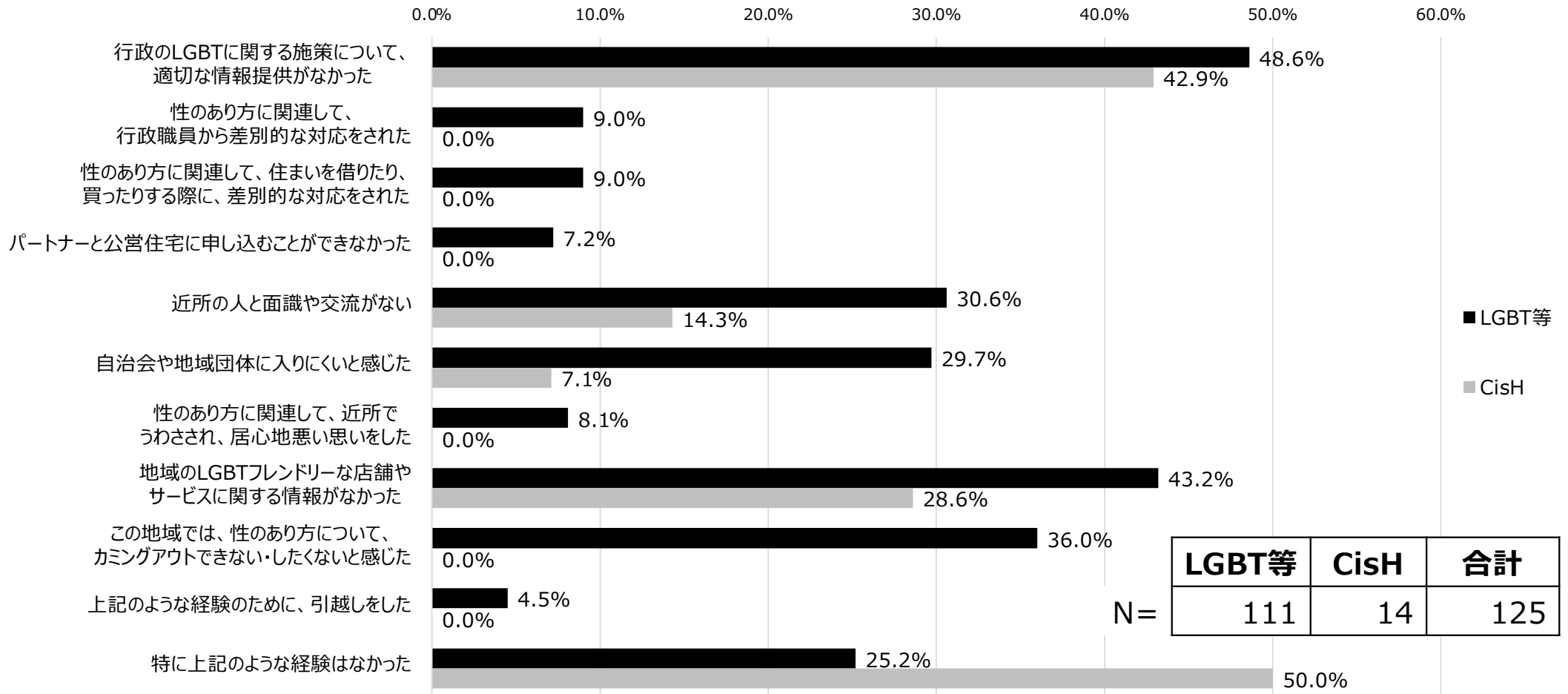
→ : 統計的に有意な関連が認められたもの。

→ : 有意な関連は認められなかったが、一般的に関係性が推測されるもの。

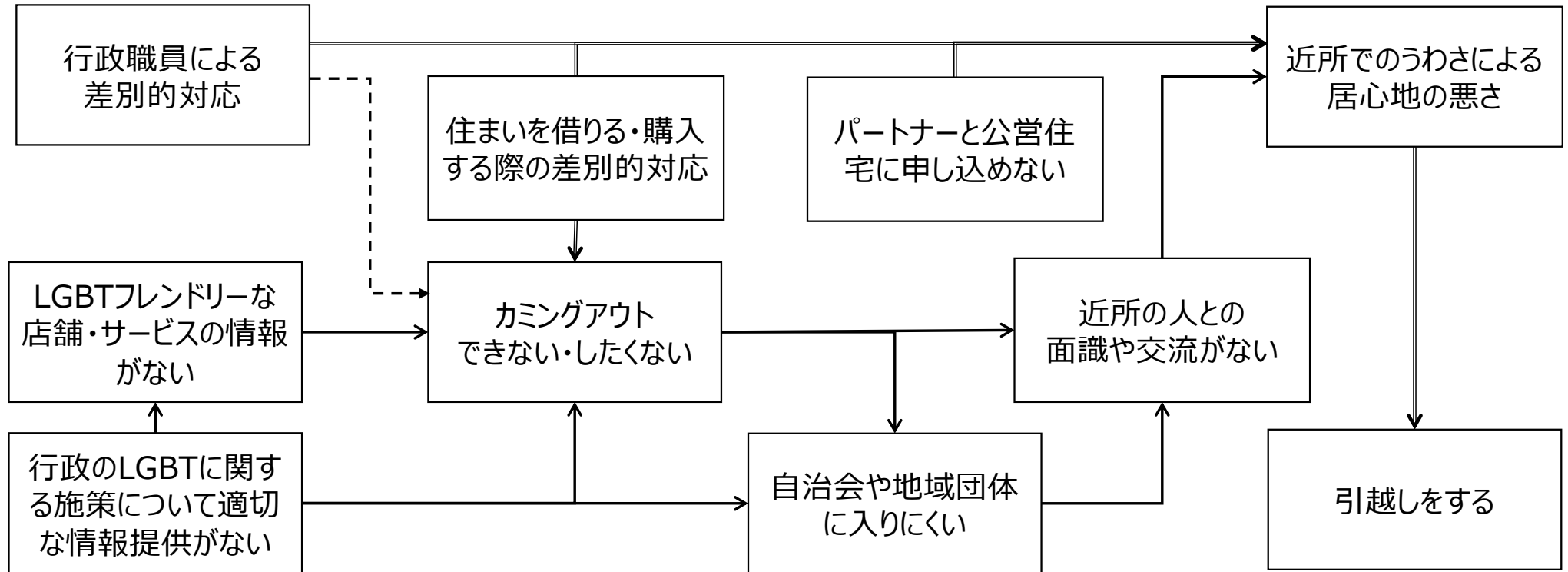
⇒ : 回答の偏りにより、検定が行えなかったが、対象者が増えれば有意な関連が見込まれるもの。

※矢印の方向（因果関係）は、すべて調査者による仮説である。また、簡略的に図式化するため、矢印は一方向としているが、実際は双方向に影響し合うものが多いと思われる。

暮らしの中で経験した困りごと



暮らしにおける困りごと



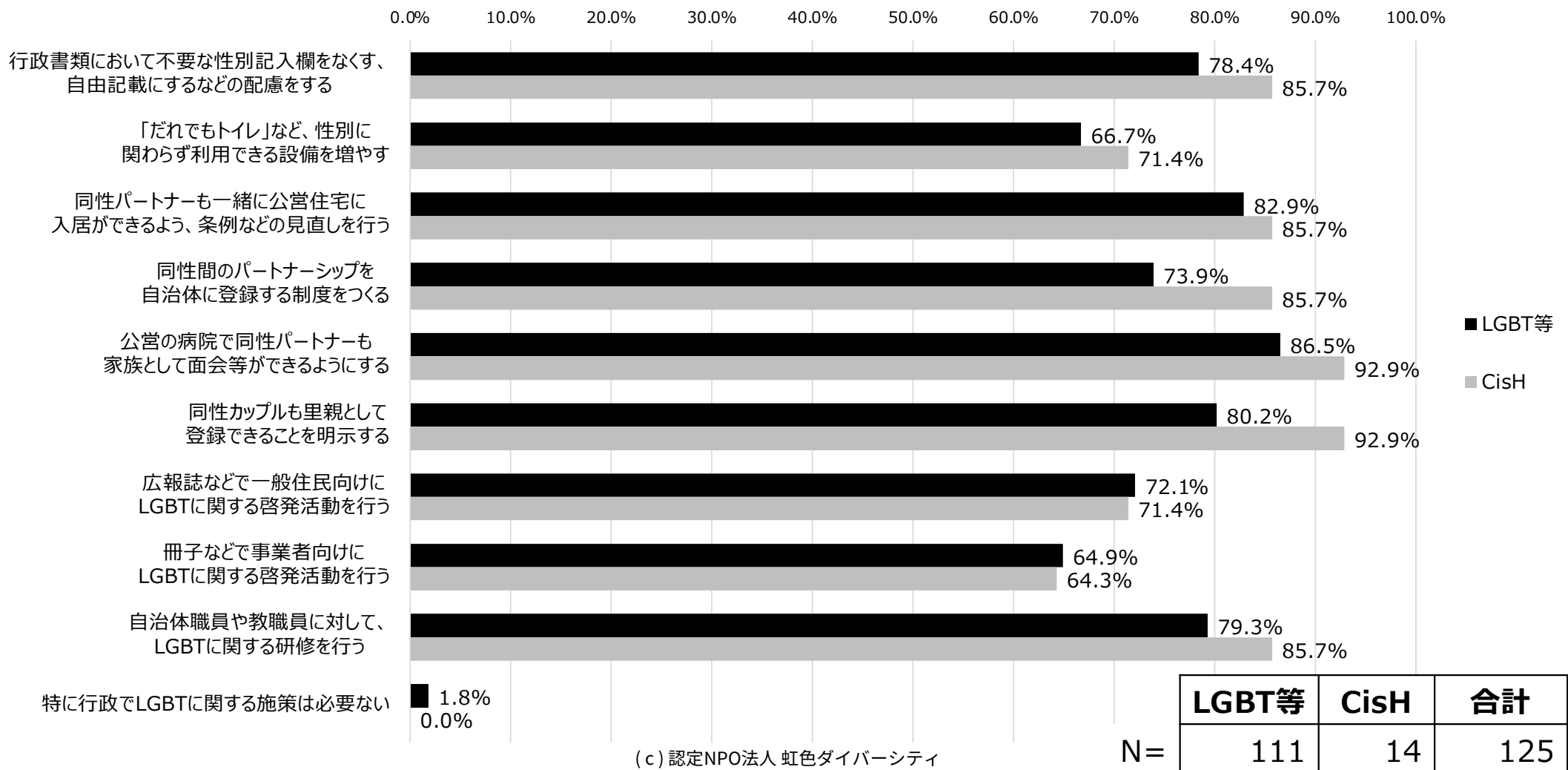
→ : 統計的に有意な関連が認められたもの。

→ : 有意な関連は認められなかったが、一般的に関係性が推測されるもの。

⇒ : 回答の偏りにより、検定が行えなかったが、対象者が増えれば有意な関連が見込まれるもの。

※矢印の方向（因果関係）は、すべて調査者による仮説である。また、簡略的に図式化するため、矢印は一方向としているが、実際は双方向に影響し合うものが多いと思われる。

あれば良いと思う行政施策



まとめ

- ✓LGBT等は、学校、職場、医療・福祉、暮らしの中で、性に関わる多くの困難に直面している。
- ✓そのような経験は、「カミングアウトできない」「相談できない」と感じることに繋がっている。
- ✓場合によっては、学校に通えない、休職や離職、医療機関の受診へのためらい、引っ越しなど、その場へのアクセスができない状況に迫いやられてしまう。
- ✓現状を改善するために、性の多様性に関する情報提供や、差別的言動を引き起こさない環境づくり、不必要な男女分けをしないことなど、それぞれの場においてLGBTの存在を前提とした対応が必要である。
- ✓学校、職場、医療・福祉、暮らしの中で、LGBTも安心・安全に生きることができるよう、行政施策の整備が必要である。